

ましけり、ならびひとしからずとつけられたまへる名にぞ、このもじは侍るなり、

〔藤原家傳武智麻呂〕藤原左大臣諱武智麻呂左京人也。略中 天武天皇即位九年歲次庚辰四月十五

日、誕於大原之第、義取茂榮、故爲名焉。

〔續世繼四〕ふしみの雪のあした、あふみのかみ有佐といひし人は、後三條院のまことには御子とき

こえしかど、さぬきのかみ顯綱のこにてこそやまれにしか、有佐といふ名も、みかどの御てにて、あふぎにか、せ給て、母の内侍にたまへりける。

〔台記〕康治元年六月十九日庚辰、青侍初參請名、于時尙書第七卷在前、因之名以寬命篇也、追遙集跡也。

〔沙石集四〕上人ノ子持タル事

一信州鹽田ノ或山寺ニ上人アリ、三ノ腹ニ三人ノ子ヲ持リ、初ノ腹ノ子ハ、マメヤカニ忍ケレバ、上人ノ子ト云ヒケレドモ不審ニ覺テ、名ヲバ思ヒモヨラズト付タリ、次ノ腹ノ子ヲバ、時々ニハ

我坊ニモ忍々ニ通ケレバ、ヒタスラニ疑ノ心モ薄クシテ、名ヲバサモアルラムト付ク、後ノ妻ハ打絶我坊ニ置テ疑心ナカリケレバ、名ヲバ子細ナシト付ク、是ハ當時ノ事也。

〔平治物語三〕牛若奥州下事

遮那王略中 承安四年三月三日ノ曉、鞍馬ヲ出テ、東路遙ニ思立、心ノ程コソ悲ケレ、其夜鏡ノ宿ニ

著、夜更テ後、手ヅカラ髮取上テ、懷ヨリ烏帽子取出シ、ヒタト著テ打出給へバ、陵助、早御元服候ケルヤ、御名ハ何ニト問奉レバ、烏帽子親モナケレバ、手ヅカラ源九郎義經トコソ名乗侍レト答テ、

打連給テ、略下

〔吾妻鏡十二〕建久三年八月九日己酉、巳剋男子御産也。略中 次有御名字定、千萬君云云、

〔吾妻鏡十四〕建久五年二月二日甲午、入夜江間殿義時北條 嫡男童名金剛、元服於幕府有其儀。略中 時